

独立行政法人・放射線医学総合研究所（佐々木真典所長）
 興、千葉市稲毛区、放射線の医学子施設センター医学
 物理院放射線システム開発室は、千葉大学医学部（カ）と
 の協力を共同で、高感度PbT用電子断層撮影装置（PET）
 用として世界最高性能となる解像度・五分の検出器の
 開発に成功した。新開発が欠かせない実験小動物専用の

PbT用の実現につながる成果という。開発中（写真）
 台の検出器が得られ、市販装置の五分の感度で撮影が可
 能になった。さらに、がんなどの検出のメカニズム解明や
 放射線治療の高精度化につながるなどしている。きょう
 二十一日、カザヤ・トロントで開催される米国放射線学会で放
 射線の付録発表が発表する。

最高性能のPET用検出器

放医研など 共同開発 きょう学会発表

射し、体内から放射され加した。
 る放射線を検出器でとら
 え感度化する。また、感
 度や解像度を調製が必
 り、各国で新しい研究・
 開発競争が展開されてい
 る。

解像度が劣化する検出器を
 高感度・三次元放射線検
 出器を導入した女性共型
 検出器をさらに小型化し
 PbT専用を開発。高感度、高
 精度で、実験動物をさすラウ

として世界的な競争状態
 にもなっている。
 今回の開発成功により
 画期的な小動物専用PET
 T開発が可能になるほ
 か、がんなどの検出のメカ
 ニズム解明や、乳がんの
 早期発見などを目指した
 個別PETへの応用も
 期待されるとしている。

解像度 1 ミリ台
 感度 5 倍以上

今回開発されたのは、
 PbT用の心臓部となる小
 型の三次元放射線検出
 器。放医研と関西三ノ
 力、そして千葉大学理

学部の河内秀幸助教が
 検出器の試作と実験評
 価、開発などの早期
 実現に向けた企画、橋本
 研、四工大学の岩田昭
 助教授と菅野生助助教が
 主要な役割を果たした。

この装置は、がんや脳腫瘍
 の早期発見や、がんの
 治療効果の評価など
 に役立つと期待されてい
 る。

この装置は、がんや脳腫瘍
 の早期発見や、がんの
 治療効果の評価など
 に役立つと期待されてい
 る。

この装置は、がんや脳腫瘍
 の早期発見や、がんの
 治療効果の評価など
 に役立つと期待されてい
 る。

この装置は、がんや脳腫瘍
 の早期発見や、がんの
 治療効果の評価など
 に役立つと期待されてい
 る。

【千葉日報 平成十七年六月二十一日 朝刊一面】